

※文化審議会第 17 期文化政策部会（第 2 回）配布資料

※文化審議会第 18 期文化政策部会（第 3 回）配布資料

基本計画フォローアップシート

① 子供の芸術教育・体験の充実

- ◆ 文化芸術による子供育成総合事業【参事官（芸術文化担当）】
- ◆ 伝統文化親子教室事業【参事官（文化創造担当）】

①子供の芸術教育・体験の充実

◆ 文化芸術による子供育成総合事業【参事官（芸術文化担当）】

達成目標

- 次の世代の芸術家や観客たる子供たちが、創造性や発想力、コミュニケーション力を身に付けるとともに、文化芸術を体験・修得する機会を提供する。

現状分析

- 本事業内で行っている「文化芸術による子供の育成事業に関する調査研究」におけるアンケートにおいて、小・中学校等での文化芸術鑑賞・体験機会の提供について、平成29年度中に「文化芸術鑑賞・体験機会（両方またはどちらか）の提供を実施している」割合が65.5%ある一方、「これまで実施されたことがない」が16.8%あり、1割以上の学校で文化芸術鑑賞・体験機会の提供がなされていない。
- 小・中学校等における働き方改革や指導体制の充実、少子化に伴う部員減少による活動機会の減少の防止等、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会の確保に向けた体制・環境整備が求められている。

⇒ 文化芸術鑑賞・体験機会の提供がなされていない小・中学校等での機会提供及び学校の働き方改革等を踏まえた文化芸術活動機会の確保に向けた体制・環境整備が必要。

測定指標（達成目標を図るための指標）

- 小・中学校等において「子供を対象とした文化芸術鑑賞・体験機会の提供を実施している」と回答した学校数の割合
- 子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞・体験することにより「豊かな心や感性、創造性を育むことができた」と回答した学校数の割合
- 子供たちが小・中学校等の時期に文化芸術の鑑賞・体験を受けた効果等について総合大学や芸術系大学等の学生等に調査を行う。

達成手段

(1)主な平成30年度の施策（◆予算事業、●その他）

- ◆文化芸術による子供の育成事業 5,274百万円（令和元年度予算額 5,294百万円）【参事官（芸術文化担当）】
- ◆全国高等学校総合文化祭 98百万円（令和元年度予算額 99百万円）【参事官（芸術文化担当）】
- 地方交付税措置
- 文化部活動に関するガイドラインの作成

◆ 文化芸術による子供育成総合事業【参事官（芸術文化担当）】

(2)主な事業の分析

行政事業レビューの抜粋（現在調整中の内容含む）

活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	(3)文化芸術による子供の育成事業 子供たちが文化芸術に触れられる機会の提供 (学校等における巡回公演数)		活動実績	公演	1,778	1,834	1,803	－	
			当初見込み	公演	1,843	1,863	1,819	1,798	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	(3)文化芸術による子供の育成事業 子供たちが文化芸術に触れられる機会の提供 (学校等への芸術家派遣箇所数)		活動実績	箇所	2,748	3,858	4,350	－	
			当初見込み	箇所	2,712	2,862	3,339	－	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 30 年度	目標最終年度 － 年度
	(3)文化芸術による子供の育成事業 子供たちの豊かな心や感性、創造性を育む効果を高い水準(90%以上)に維持すること。	子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞・体験することにより「豊かな心や感性、創造性を育むことができた」と回答した開催校割合	成果実績	%	89.3	86.5	86.4	－	－
			目標値	%	90	90	90	90	90
			達成度	%	99.2	96.1	96	－	－
	根拠として用いた統計・データ名 (出典)	実績報告書							

◆ 文化芸術による子供育成総合事業【参事官（芸術文化担当）】

(2)主な事業の分析

グッドプラクティス（平成30年度）

巡回公演事業

【概要】

実演団体：東京演劇集団風

企画：全校児童・生徒参加によるミュージカル「星の王子さま」（原作：サン＝テグジュペリ）

巡回地域：福岡県・佐賀県・熊本県・福岡市・北九州市・熊本市

主な取組内容：

○各実施校の実状にあわせたプログラム作成

学校との打合せを丁寧に行い、学校の要望に沿った参加・体験プログラムを個々に作成。

○ブロック内の教育委員会等への積極的なアプローチや広報

県、政令都市、市町村等を計 18 か所訪問し、巡回公演事業の広報を実施。

【評価点】

実施校の実状に合わせたプログラムを作成しており、実施校からは非常に高い評価を得ているとともに、本事業へ未参加の学校等にも教育委員会等を通し、積極的に声掛けすることにより、子供たちの鑑賞機会の拡充に貢献。本事業を実施した県の一つの市では、教育長の提案により、市内全小中学校が2学期の開始を数日間繰り上げ、子供達が文化芸術に触れる時間的余裕を30時間確保してもらえるようになり、文化芸術への関心が非常に高まった。

芸術家の派遣事業

【概要】

実演家：安藤広二（所属：ジェネシスオブエンターテインメント）

実施地域：大阪府、兵庫県、奈良県

主な取組内容：

小・中学校等の子供たちに、障がいのある芸術家等を派遣し、車いすダンスの披露や車いすダンス体験等の機会等を提供。

【評価点】

障がいのある芸術家のパフォーマンスを鑑賞・体験するとともに、障がいについての講演や、車いすの介助方法レクチャーも取り入れており、文化芸術活動による共生社会の推進にも貢献。

◆ 文化芸術による子供育成総合事業【参事官（芸術文化担当）】

(3) 評価点と改善点

評価点

- 文化芸術による子供の育成事業を実施した学校等において、子供達が優れた舞台芸術を鑑賞・体験することにより、「豊かな心や感性、創造性を育むことができた」と回答した学校数の割合が86.4%あった。

要改善点

- 文化芸術による子供の育成事業アンケート調査結果によると、文化芸術鑑賞・体験機会の提供した学校の割合は過半数を超えているものの、未実施の学校が1割を超えており、引き続き本事業を実施することによって、文化芸術鑑賞・体験の機会の充実を図っていく必要がある。
- 学校における働き方改革や指導体制の充実、少子化に伴う部員減少による活動機会の減少の防止等、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会の確保に向けた体制・環境整備が求められており、学校・地域・団体等が連携した持続可能な芸術文化等の活動のための環境整備に取り組む必要がある。

改善の方向性（今後の事業展開）

- 小・中学校等での芸術鑑賞を行った子供たちが進路に与えた影響を図るものとし、芸術系大学等へ調査を行う。
- 事業の更なる広報・情報発信に努めるとともに、自治体種別や地域によって、実施している割合が異なっているため、未実施の割合が高い都道府県をピックアップし、自治体担当者等にヒアリングを行い、各自治体の事情等を考慮しつつ事業の活用を促すとともに、地域の特性に応じた事業実施を検討する必要がある。
- 学校における働き方改革の動向を踏まえ、家庭の経済状況にかかわらず、児童・生徒が多様な芸術文化等の活動に親しむ機会を充実できるよう、学校・地域・団体等が協働・融合した「地域文化倶楽部（仮称）」の創設を検討する。
- 美術館等の文化施設を活用し、学校外においても子供たちが文化芸術に触れることが出来る機会を提供する。

- 義務教育期間中の子供たちが質の高い文化芸術に触れる機会の充実に努める。
- より多くの文化芸術の鑑賞・体験が可能となるよう地方公共団体への呼びかけなどを行う。将来的には、地方公共団体の自主事業等も含め、義務教育期間中毎年1回は、文化芸術の鑑賞・体験ができる環境を整えることを目指す。
- これまでの実演芸術に新たにメディア芸術分野を追加・拡充することにより、今まで以上に発想・創造力等を育むことによって、より充実した芸術教育の推進を図る。
- 他教科と比べ、学校内における研鑽の機会が乏しい美術や音楽といった芸術系教科等担当教員等への研修等を通じた学びの機会を確保するとともに、今後の芸術教育の方向性や文化と教育両分野の一体的な学習プログラムの構築等を検討する。
- 新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」につながる芸術教育として、美術館や博物館等の文化施設と市町村等の教育委員会が連携協力し、学習指導要領に沿った鑑賞教育プログラムを構築する。

1 巡回公演事業

- 国が一流の文化芸術団体を選定し、小学校・中学校等において実演芸術公演を実施。
 - 事前に児童・生徒が自ら参加する体験型の活動(ワークショップ)を実施。
- 公演種目 15種目 □公演数 1,500公演程度



3 芸術家の派遣事業

- 個人又は少人数の芸術家が学校を訪れ、講話、実技披露、実技指導を実施。
- 国、教育委員会と地域のNPO法人等が連携し、学校と芸術家個人や小規模グループをコーディネート。3,500件程度(学校公募型、NPO法人等提案型)



4 コミュニケーション能力向上事業

- 学校において、芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施。
- 芸術家による実技披露に加え、児童・生徒が小集団で協働して、課題解決に取り組む活動を実施。
- 創作や小集団での話し合い等のプロセスを重視。

200件程度(学校公募型、NPO法人等提案型)



2 合同開催事業

- 山間、へき地、離島など、鑑賞機会に恵まれない地域に存する小学校・中学校等について、合同で実演芸術公演を実施。
- 公演種目:9種目 □公演数:430公演程度

5 芸術教育における芸術担当教員等研修事業

- 各地方の芸術系及び教育系大学等の芸術担当講師等を活用し、各都道府県等のブロック別に講師を派遣し、小・中学校・高校等の芸術担当教員への研修及び実演鑑賞を実施するとともに、交流会等の意見交換の場を設ける。

6 美術館等芸術教育プログラム推進事業(新規)

- 美術館や博物館等の文化施設と、教育委員会が連携協力し、小中学校の授業の中で鑑賞等の教育を行うとともに、教育普及担当(学芸員)等が参加学校に対しアウトリーチ授業の実施する。(20か所程度)

①子供の芸術教育・体験の充実

◆ 伝統文化親子教室事業【参事官（文化創造担当）】

達成目標

次代を担う子供たちに対して、計画的・継続的に体験・修得できる機会の提供により、伝統文化等を将来にわたって確実に継承し、発展させるとともに、子供たちの豊かな人間性を涵養（かんよう）することにより、将来の我が国の伝統文化等の鑑賞から継承までの「幅広い」担い手を育む。（育成する）

現状分析

- 伝統文化親子教室終了後に、参加した子供の意識調査を実施した結果、伝統文化等への興味・関心、参加意欲、生活態度の肯定的変化について80%以上となった調査項目数（全8項目）は7項目となっており、引き続き目標達成に向けた取組が必要

【調査項目例】

- 昔からの伝承・習慣を大事にしたいと思うようになった
- すごい技能を持ちすばらしいと思える人を知った
- 最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた
- 挨拶ができたり礼儀正しくなった
- 上記調査において、「教室」で習っていることをこれからも「続けたい」または「続けさせたい」と回答した子供または親の割合は、いずれも85%以上となっている。

測定指標（達成目標を図るための指標）

- 参加した子供の意識・行動に関する調査において、「教室」で習っていることをこれからも「続けたい」または「続けさせたい」と回答した子供の割合（80%以上）
 - 参加した子供の意識・行動に関する調査において、「教室」で習っていることをこれからも「続けたい」または「続けさせたい」と回答した親の割合（80%以上）
 - 上記調査において、教室を実施したことについての指導者自身の肯定的変化について80%以上となった調査項目数（全4項目）
 - 1年間に伝統文化等に関する活動等をした人の割合（10%以上）
- ※ 行政事業レビューで指摘された事項について、今後対応が必要。

達成手段

(1)主な平成30年度の施策（◆予算事業、●その他）

- ◆ 伝統文化親子教室事業 1,269百万円（令和元年度予算額 1,284百万円）【参事官（文化創造担当）】
 - 教室実施型：3,450教室を実施（各教室、10名以上で年間5回（3日）以上実施）
 - 地域展開型：11地域で実施（1日体験型及び講座型）

◆ 伝統文化親子教室事業【参事官（文化創造担当）】

(2)主な事業の分析

行政事業レビューの抜粋

※ 行政事業レビューで指摘された事項について、今後対応が必要。

活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	事業実施教室(団体)数	活動実績	教室数	3,612	3,435	3,450	-	-
		当初見込み	教室数	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	事業実施地域(自治体)数	活動実績	地域数	-	-	11	-	-
		当初見込み	地域数	-	-	20	30	40
単位当たり コスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	支出額／事業実施教室(団体)数	単位当たり コスト	百万円	0.3	0.4	0.3	0.3	
		計算式	支出額/教室数	1,117/3,612	1,203/3,435	1,191/3,450	1,238/4,000	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	支出額／事業実施地域(自治体)数	単位当たり コスト	百万円	-	-	0.8	1.5	
		計算式	支出額/地域数	-	-	9/11	46/30	

成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標		目標最終年度	
								31	年度	-	年度
	伝統文化等の確実な継承と子供たちの豊かな人間性の涵養（かんよう）を成果目標として、教室に参加した児童・生徒及び保護者の多くの意識が肯定的に変化することを目指す。	子供が、教室終了後も伝統文化等に関わりたい、または関わらせたいと考える割合（80%以上）	成果実績	項目	-	-	-	-		-	
			目標値	項目	-	-	-	-		-	
達成度			%	-	-	-	-		-		
根拠として用いた統計・データ名（出典）	伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査 ※令和元年度から計測予定										
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標		目標最終年度	
								-	年度	-	年度
	伝統文化等の確実な継承と子供たちの豊かな人間性の涵養（かんよう）を成果目標として、教室に参加した児童・生徒及び保護者の多くの意識が肯定的に変化することを目指す。	保護者が、教室終了後も伝統文化等に関わりたい、または関わらせたいと考える割合（80%以上）	成果実績	項目	-	-	-	-		-	
			目標値	%	-	-	-	-		-	
達成度			%	-	-	-	-		-		
根拠として用いた統計・データ名（出典）	伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査 ※令和元年度から計測予定										
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標		目標最終年度	
								-	年度	-	年度
	伝統文化等の確実な継承と子供たちの豊かな人間性の涵養（かんよう）を成果目標として、教室を実施した指導者の意識が肯定的に変化することを目指す。	教室を実施したことについての指導者自身の肯定的変化について80%以上となった調査項目数（全4項目）	成果実績	項目	-	-	-	-		-	
			目標値	項目	-	-	-	-		-	
達成度			%	-	-	-	-		-		
根拠として用いた統計・データ名（出典）	伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査 ※令和元年度から計測予定										
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標		目標最終年度	
								-	年度	-	年度
	伝統文化等の確実な継承と子供たちの豊かな人間性の涵養（かんよう）を成果目標として、伝統文化等に関する活動等をする人口が一定程度いることを目指す。	1年間に伝統文化等に関する活動等をした人の割合（10%以上）	成果実績	%	-	-	-	-		-	
			目標値	%	-	-	-	-		-	
達成度			%	-	-	-	-		-		
根拠として用いた統計・データ名（出典）	文化に関する世論調査										

◆ 伝統文化親子教室事業【参事官（文化創造担当）】

(2)主な事業の分析

グッドプラクティス（平成30年度）

府中囃子伝承事業親子教室（教室実施型） ※実施主体：府中囃子保存会（東京都府中市）

【主な取組内容】

府中市の郷土芸能である「府中囃子」や礼儀作法を体験する教室を開催。

【評価点】

保存会に所属する24支部すべてで組織的に実施することにより、域内で面的に教室を展開。

ながと伝統文化キッズフェスタ（地域展開型） ※実施主体：長門市（山口県）

【主な取組内容】

百人一首、けん玉、俳句かるた、茶道、生け花等、複数の伝統文化を体験できるイベントを実施。

【評価点】

教室実施型の指導者等を当該催し物の講師として活用。

遊ぼう 学ぼう 伝統文化～つるぎの町で～（地域展開型） ※実施主体：つるぎ町（徳島県）

【主な取組内容】

華道や坂外獅子舞太鼓、伝統芸能などの体験を実施。また、うだつの町並みについて、事前学習教室を実施した上で、児童によるうだつの町並み案内を実施。

【評価点】

行政が主体となり地域の文化を掘り起こし、教室数の少ない県北部地域において、地域の子供達の体験機会の充実を図っている。また、教室実施型の指導者や地域住民と連携することで、過疎地域における課題にも取り組んでいる。積極的な取り組みから、今後の事業の更なる充実も見込まれる。

◆ 伝統文化親子教室事業【参事官（文化創造担当）】

(3) 評価点と改善点

評価点

- 伝統文化親子教室に参加した子供の意識調査のうち、伝統文化等への興味・関心、参加意欲、生活態度についての調査項目（全8項目）のうち、30年度は7項目について、80パーセント以上の肯定的変化となった。
- 上記調査において、「教室」で習っていることをこれからも「続けたい」または「続けさせたい」と回答した子供または親の割合は、いずれも85%以上となった。

要改善点

- 伝統文化親子教室事業における子供、保護者、指導者を対象とした「子供たちの意識・行動に関する調査」により、事業の目的に即した定量的な成果指標を定め経年変化を追い、成果目標の達成状況を把握しており、参加した子供たちの意識・行動の肯定的変化が確認しているが、中長期的な観点からの把握等も必要である。
- 子供の文化芸術体験機会の充実を図るためには、実施が少ない分野や地域などを対象に、さらなる充実が必要である。

改善の方向性（次年度以降の事業展開）

- 「子供たちの意識・行動に関する調査」に中期的な成果を把握するための設問を追加するとともに、長期的な観点による把握も検討する必要がある。
- 地域展開型事業の拡充を図るなど、地域の状況に応じた事業実施を進める必要がある。

⑦文化資源を活用した付加価値創出（観光等）

（１）文化財多言語解説整備事業

担当課：文化資源活用課

1) 文化財多言語解説整備事業

令和2年度予算額 1,847百万円の内数

概要

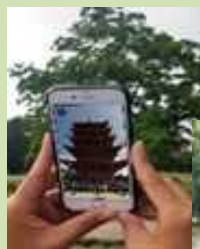
訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して多言語で先進的・高次元な言語解説を整備する事業を、観光施策と連携させつつ実施。また、博物館等のサイン等の多言語化を整備。

事業内容

文化財中核観光拠点200か所を中心として、先進的・費用対効果の高い多言語解説を整備。
また、博物館等のサイン等の多言語化を整備。



2次元コードにスマートフォンをかざすと、英語など多言語解説文のテキスト表示と音声読み上げられる。



現存しない建造物等を史実に基づいて高精細かつ色鮮やかに、多言語によるナレーションにより、VRコンテンツで再現。



多言語によるVR動画コンテンツ（普段見れない場所の360度映像、空中から見るVR体験等）を楽しむことができる。

文化財活用・理解促進戦略プログラム2020（抄）
（平成28年4月 文化庁策定）

2020年までの目標

- ・文化財単体ではなく地域の文化財を一体とした面的整備や分かりやすい多言語解説の整備などの取組を1000事業程度実施するとともに、日本遺産をはじめ、文化財を中核とする観光拠点を全国200拠点程度整備

観光庁・文化庁・環境省の連携による解説整備を推進

【観光庁】
魅力的でわかりやすい解説文作成

専門家を派遣し、魅力ある
多言語解説文の作成支援

分かりやすい多言語
解説整備推進委員会



【文化庁】
先進的・高次元な媒体整備

先進的な媒体を用いた解説
整備への支援

⑦文化資源を活用した付加価値創出

1) 文化財多言語解説整備事業

達成目標

- 文化財の保存・活用の一環として、積極的に情報発信等することにより、文化財を目的に海外から多くの人々が我が国を訪れ地域での国際交流が行われることは、文化芸術を通じた相互理解につながるとともに、国家ブランディングにも貢献するものである。このため、文化施設や地域観光資源等の多言語化対応を進めることが重要であるとともに、関係機関等と連携し、訪日外国人が文化芸術に触れる機会を増やすことを目指す。
(※文化芸術推進基本計画 戦略3 関係)

現状分析

- 訪日外国人旅行者誘致の観点から、地域を訪れた際、観光資源となりうる文化財の解説文について、英語等の外国語に対応していない、又はネイティブから見て表記が不十分である、などの不満があることが指摘されている。
- これらの事態は、訪日外国人旅行者の増加という観点から課題であるのみならず、来訪者に対して、文化財を通じて我が国の文化や歴史の魅力を十分に伝え切れないという問題にも繋がっている。
※全体の約68%の旅行者が、城郭・神社・仏閣における歴史・文化に関する説明を読む際に困った場面があると回答
(H29年度 観光庁「訪日外国人旅行者の受入環境整備における国内の多言語対応に関するアンケート」)

⇒ 観光資源となりうる文化財について、ネイティブの目からも分かりやすい多言語での解説設備の整備及び体験滞在の質的向上が必要。

測定指標（達成目標を図るための指標）

- ① 本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数
- ② 本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度
- ③ 本事業で発信した国指定等文化財にリピート訪問した外国人旅行者の割合
- ④ 本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客のうち、いずれまた訪問したいと答えた者の割合

達成手段

(1)主な令和元年度の施策（◆予算事業、●その他）

- ◆ 文化財多言語解説整備事業（国際観光旅客税財源） 1,000百万円（令和2年度予算額 1,100百万円）

◆ 文化財多言語解説整備事業

(2)主な事業の分析

行政事業レビューの抜粋及び 新規設定アウトカム

活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込
	整備を実施した観光拠点件数		活動実績	件	－	22	50	－	－
			当初見込み	件	－	55	100	173	173
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 4年度	目標最終年度 年度
	整備を実施した観光拠点に おける外国人旅行者の満足 度	整備を実施した観光拠点に おける外国人旅行者の満足 度	成果実績	%	－	－	－	－	－
			目標値	%	－	－	－	90	－
			達成度	%	－	－	－	－	－
	根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	整備を実施した事業の報告書							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 4年度	目標最終年度 年度
	整備を実施した観光拠点に 訪問した外国人旅行者のう ち、いずれまた訪問したいと 答えた者の割合	整備を実施した観光拠点に 訪問した外国人旅行者のう ち、いずれまた訪問したいと 答えた者の割合	成果実績	%	－	－	－	－	－
			目標値	%	－	－	－	90	－
			達成度	%	－	－	－	－	－
	根拠として用いた 統計・データ名 (出典)								

令和元年度における指標が未記載のものについては、達成状況について精査中

1) 文化財多言語解説整備事業

(2) 主な事業の分析

グッドプラクティス

日光 二荒山神社等（栃木県） ～ 2次元コードから多言語音声コンテンツ ～

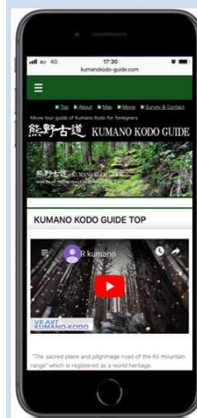


二荒山神社 神橋

通信環境を必要とせず、2次元コードにスマートフォンをかざすと、英語・韓国語・中国語など多言語解説文のテキスト表示と音声を読み上げられる。（看板設置13資産）

熊野古道 ガイドアプリ整備事業（和歌山県）

基本画面



- 熊野古道を英語で楽しむことができる総合WEB制作。位置情報と連動して現地においてスマートフォンから多言語による動画等コンテンツを楽しんでもらうことを想定。
- 現地ガイドによる案内動画、360度VR映像等が主なコンテンツプログラム
- アンケートページを実装。満足度やどこが気に入ったのかマーケット調査を行うことができる。

●動画：現地ガイドによる案内



現地ガイドならではのポイントを英語（テロップ、ナレーション）で紹介

●360度映像

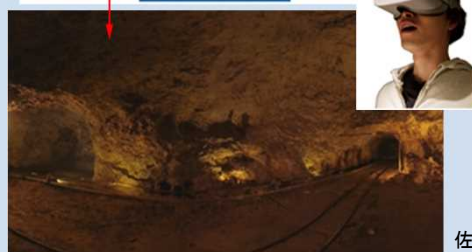


360度カメラ撮影による各スポットの動画で、VRゴーグルを使えばその場所にいるような疑似体験も可能

佐渡 佐渡金銀山遺跡等（新潟県） ～ 高精細なVRコンテンツ ～



ヘッドマウントディスプレイから多言語ナレーションによるVR動画コンテンツ（普段見れない場所の360度映像、空中から見るVR体験等）を楽しむことができる。これらコンテンツは最先端の技術を利用して高精細に撮影されたものであり、まるでそこにいるかのような体験をすることができる。

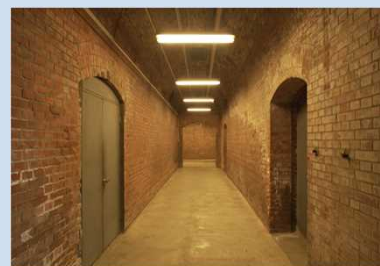


観光案内所等へ設置

佐渡金銀山遺跡（普段立ち入れない場所）

文化財としての酒蔵を活用した訪日誘客事業（東京都）

- 東京都内に現存する日本酒関連文化財施設を、英語解説付きの映像で紹介し、外国人観光客に日本酒の歴史や文化及びその魅力を理解してもらうためのコンテンツ制作。
- 360度の撮影によるVR映像を制作、観光客のスマートフォンや、酒蔵における貸し出し用タブレットなどでも視聴できるよう整備。
- アンケートページを制作し、文化財としての酒蔵に対する満足度や気に入った点などを聞くことで、来場者のマーケティング調査も行うことができる仕様。



通常是非公開の建物内部も、映像・360度VRで公開



360度カメラ撮影による各スポットの動画は、VRゴーグルの使用によって、現地にいるような疑似体験が可能

1) 文化財多言語解説整備事業【文化資源活用課】

(3) 評価点と改善点

評価点

- 平成30年度22地域、R1年度50地域、本年度（R2年度）52地域において、多言語解説の整備を進めている。現在においても来年度以降の応募に向けてスケジュール確認の問合せが継続して寄せられており、その目的や必要性が広く国内に共有されている。
- 文化財についてわかりやすく魅力的な看板の整備のみならず、V R・A Rといった最先端の情報通信技術を導入し、より一層文化財への理解を促している。
- 整備した多言語解説文、動画等のコンテンツの著作権は文化庁と共有としており、文化庁が訪日外国人観光客誘致のために発信する「文化遺産・観光コンテンツバンク」に格納しつつ、本事業の広報や応募等に関するウェブサイトに掲載するなど、地域における誘客のみならず、幅広く2次利用することが可能となっている。（例：佐渡金銀山の高精細V Rコンテンツを東京の県アンテナショップにおいてV R体験会（ブース出展）実施）

要改善点

- 補助事業者には、事業実施による成果の測定指標と目標値を明確にし、当該文化財への入込外国人観光客数と入込外国人観光客満足度の集計を必須としているが、事業の課題・成果分析のため、**アンケートの実施、自己目標の設定など**、より多角的に統計やデータが採れるよう工夫が必要。
- 多言語の媒体整備ではあるが、英語化が中心となっており、その他の言語での解説整備を促進しつつ、**翻訳の品質が担保されるよう注意が必要**。また、より魅力的に感じてもらえるようなストーリー性のあるコンテンツ作りについても、事業者に留意いただくよう周知が必要。

改善の方向性（次年度以降の事業展開）

- 補助事業者に対し、事業の成果検証のため、入込客数及び満足度以外のアンケート項目の設定等を促す。
- 観光庁「地域観光資源の多言語解説整備事業」では中国語の解説文制作を推進しており、本事業においても観光庁事業の方針を踏まえつつ英語以外の制作を推し進める。
- ほかの文化財所在地域の模範となるよう、グッドプラクティス等、優良な取組事例を周知するなど、事業の横展開を図る。

⑦文化資源を活用した付加価値創出（観光等）

2）日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信

担当課：文化財第一課【主】

参事官（芸術文化担当）

政策課

2) 日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信

令和2年度予算額
(前年度予算額)

1,660百万円
2,060百万円)



概要

訪日外国人旅行者の旅前の情報発信の充実や地域での体験滞在の満足度を向上や再訪へ結びつけるため、先端技術を駆使して日本の歴史・芸術・伝統的な文化財や風景など発信する事業を、観光施策と連携させつつ実施。

事業内容

旅行前の情報収集段階、訪日観光客が必ず利用する空港等などの**主要観光インフラ**、必ず訪れる**主要な観光地**などにおいて、文化財を始めとする日本固有の文化資源を**先端技術を駆使して効果的に発信**し、各観光地への誘客や消費の拡大と体験滞在の満足度向上を図る。加えて、日本文化の多様な魅力・コンテンツに関する情報入手を容易にする取り組みも実施。

旅行前 (訪日前の情報収集等)

渡航前の 日本文化発信

渡航前の外国人観光客等に向けた観光情報発信のプラットフォーム提供

文化遺産・観光 コンテンツバンク

【対象経費】
・ウェブサイト構築
・コンテンツ（動画・画像）収集等業務
・コンテンツの権利
許諾業務 等



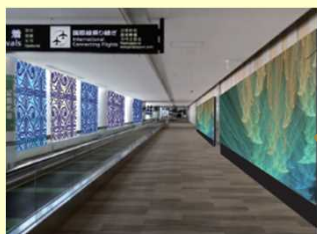
日本観光の玄関口

空港等における日本文化発信

固有の文化資源を最先端のメディア芸術等を活用して魅力的に発信し、日本滞在への期待感を増すとともに、各観光地・文化芸術施設・イベントへ線で誘導。

・委託事業
実施予定数 15拠点

【対象経費】
・文化財等の文化資源を活用したメディア芸術作品制作費
・展示設備等経費 等



新千歳空港アイヌ文化発信イメージ



参考：重要無形民俗文化財 アイヌ古式舞踊

主要観光地

文化財所有者が行う日本文化の魅力発信

文化財所有者等がVR・MRや4K8K等の高精細画像。高精細複製等の先端技術を活用した文化財の公開・展示等の取組を支援。体験滞在の満足度向上等を図る。

・補助事業
(文化財所有者・民間団体等 原則1/2補助)
・実施予定数 12件

【対象経費】
・コンテンツ（VR,MR技術映像や高精細画像や高精細レプリカ等）制作費
・多言語解説経費 等



▶ 国宝「風神雷神図屏風」(俵屋宗達筆)のMR技術を駆使したミュージアムを開催

日本観光の玄関口

空港等における 日本文化発信

出発直前まで楽しめる空間を演出し、日本滞在の満足度を向上、他地域の紹介で再訪の動機づけとする。



参考：羽田空港と歴博による取組



参考：羽田空港でのメディア芸術祭受賞作品関連展示

旅行後 (帰国後の情報発信)

帰国後の情報発信・レポート促進

帰国後の外国人観光客が旅行中の感想等を投稿するサイトを構築し、更なる外国人観光客の促進へ。

・文化遺産・観光
コンテンツバンク



⑦文化資源を活用した付加価値創出（観光等）

2) 日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信

達成目標

- 訪日外国人旅行者等の旅行前の情報収集段階、必ず利用する空港等の主要インフラ、必ず訪れる主要な観光地等において、文化財を始めとする日本固有の文化資源を先端技術を駆使した効果的な発信を行うことにより、消費の拡大と体験・滞在の満足度向上を目標とする。
(※文化芸術推進基本計画 戦略3 関係)

現状分析

- 訪日前の公的な情報発信や外国人への日本文化の魅力発信に課題。(訪日前に最も期待していたこととして、美術館・博物館や舞台鑑賞、歴史・伝統文化体験を挙げる人はいずれも5%未満等「訪日外国人消費動向調査」)。旅行前の情報収集段階や、利用する空港等の主要インフラ、訪れる主要な観光地等において、文化財を始めとする日本固有の文化資源や風景など日本文化の魅力を発信する取組が必要。

測定指標（達成目標を図るための指標）

- ①訪日外国人旅行者の訪問意欲が目標値を上回ること
- ②訪日外国人旅行者の満足度が目標値を上回ること
- ③外国人旅行者の日本への興味、関心が高まったと回答した人の割合

達成手段

(1)主な令和元年度の施策（◆予算事業、●その他）

- ◆日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業 2,060百万円（令和2年度予算額 1,660百万円）

2) 日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信

(2)主な事業の分析

行政事業レビューの抜粋

●空港等における日本文化の魅力発信

活動指標及び 活動実績 （アウトプット）	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込		3年度 活動見込	
	空港等における日本文化の魅力発信を実施する箇所数		活動実績	件	-	-	13	-		-	
			当初見込み	件	-	-	12	10		-	
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標		目標最終年度	
								3	年度		年度
	外国人旅行者の訪問意向が 目標値を上回ること	空港等における日本文化の 魅力発信事業において測定し た外国人旅行者が日本へ訪 問したいと回答する割合	成果実績	%	-	-	67	-		-	
			目標値	%	-	-		90		-	
			達成度	%	-	-		-		-	
根拠として用いた 統計・データ名 （出典）	実績報告書										
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標		目標最終年度	
								3	年度		年度
	外国人旅行者の日本への興 味関心が上昇すること	空港等における日本文化の 魅力発信事業において測定し た外国人旅行者の日本への 興味関心が高まったと回答す る割合	成果実績	%	-	-	78	-		-	
			目標値	%	-	-	-	90		-	
			達成度	%	-	-	-	-		-	
根拠として用いた 統計・データ名 （出典）	実績報告書										

●文化財所有者が行う日本文化の魅力発信

活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込		3年度 活動見込	
	文化財所有者等が行う日本文化の魅力発信を実施する箇所数		活動実績	件	-	-	1	-		-	
			当初見込み	件	-	-	6	12		-	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標		目標最終年度	
			3	年度		年度					
	訪日外国人旅行者の満足度が目標値を上回ること	文化財所有者等が行う日本文化の魅力発信の取組に対する訪日外国人旅行者の満足度	成果実績	%	-	-	-(※)	-		-	
			目標値	%	-	-	-	90		-	
			達成度	%	-	-	-	-		-	
	根拠として用いた統計・データ名 (出典)	※ 令和元年度の本事業の成果実績について コロナ禍の影響もあり、本コンテンツの公開が本年夏以降に延期となったが、それ以降も、外国人旅行者の来訪がなかったため、満足度が測定できていない。									

●渡航前・帰国後の日本文化の魅力発信

活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込		3年度 活動見込	
	文化遺産・観光コンテンツバンク コンテンツ数		活動実績	件	-	-	51	-		-	
			当初見込み	件	-	-	47	47		-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込		3年度 活動見込	
	「日本博」プロジェクトのHP掲載件数(事業数)		活動実績	件	-	-	342	-		-	
			当初見込み	件	-	-	100			-	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標		目標最終年度	
	外国人旅行者の日本への興味関心が上昇すること	空港等における日本文化の魅力発信事業において測定した外国人旅行者の日本への興味関心が高まったと回答する割合					78	3	年度		年度
		成果実績	%	-	-	-	-	-	-	-	
		目標値	%	-	-	-	90			-	
		達成度	%	-	-	-	-			-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	実績報告書										

2) 日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信

(2)主な事業の分析

グッドプラクティス（令和元年度）

● 空港等における日本文化の魅力発信

「新千歳空港における大規模展示によるアイヌ文化の発信「カムイのいる世界」「100年の軌跡」」

【主な取組内容（概要）】

新千歳空港の国際線ターミナル到着コンコースにおいて、アイヌ文化をテーマとしたメディア芸術作品を展示し、独創性あふれるアイヌ文化の魅力を国内外に発信。全長26mに及ぶ大型アニメーション映像作品（「カムイのいる世界」）及び全長40mに及ぶアイヌ文様による窓面装飾作品（「100年の軌跡」）を展示。

【評価点】

空港の到着コンコースの壁面及び窓面という空港ならではの場所を展示スペースとして活用し、美術館等の施設では難しいスケールの大きな展示が実現した。

アイヌの人たちが独自に発展させ、今日まで受け継がれる伝統的な文化を、アイヌ民謡をベースとした音楽とともに視覚的に見せることにより、日本の文化の豊かさを外国人観光客に効果的に伝える展示となっている。



● 文化財所有者が行う日本文化の魅力発信

「大分県竹田市「史跡岡城跡」のAR技術等を用いた魅力発信事業」

【主な取組内容（概要）】

AR技術を用いた多言語対応スマートフォンアプリを開発し、アプリ用の解説ポイントを城内29か所へ設置。

また、ミュージアム施設内に設置する60インチの大型タッチパネルで、航空写真・古地図が切り替えながら閲覧できるデジタルマップを制作。

【評価点】

本年4月の竹田市歴史文化館の開館に合わせたコンテンツの公開を予定していたが、コロナ禍の影響もあり、同館開館が本年10月に延期となり、それに伴いコンテンツの公開も延期となった。そのため、現時点で具体的な成果等を提示できないが、外国人観光客数の回復に向け、市や市民の期待度は高まっている。



● 渡航前・帰国後の日本文化の魅力発信

「文化遺産・観光コンテンツバンク」

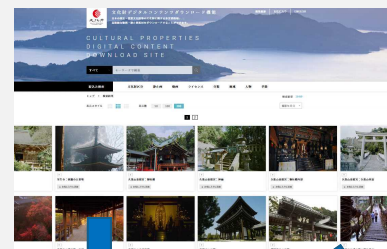
【主な取組内容（概要）】

旅前・旅後の海外向け日本文化の魅力発信として、次の2つからなる文化遺産・観光コンテンツバンクの整備を行った。

1. 文化財デジタルコンテンツダウンロード機能（日本語・英語） <https://cb.bunka.go.jp/>
国内外のメディア・旅行会社向けに、日本遺産等のVR(仮想現実)・4K（高精細）映像素材・静止画などを解説文付きで提供。
ダウンロード・二次利用を可能としている。
2. 日本政府観光局(JNTO)日本遺産特設サイト（英語） <https://www.japan.travel/japan-heritage/>

【評価点】

1. 一過性の情報発信を行うだけのデジタルコンテンツとせず、二次利用可能な権利処理やメタデータの整備を行った上で提供することで、新たなコンテンツの創造など様々な利活用が可能となった。公共交通事業者による駅構内でのデジタルサイネージ掲出やSNS等でのプロモーション、オンラインガイド旅行商品造成、大学での利用などを確認している。
2. JNTOとの連携により、一方的な情報発信ではなく、ニーズ分析・それに基づく改善などデジタルマーケティングを行う基盤として整備した。これによりコロナの影響下にあってもバーチャル旅行などをテーマに訪日意欲の向上施策を継続できた。



2) 日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信

(3) 評価点と改善点

評価点

【空港等における日本文化の魅力発信】

- 令和元年度は、事業の初年度として、訪日外国人等多様な方が行き交う空港において、本来は展示場所として想定されていないような様々なスペースを活用し、日本文化の魅力を伝えるメディア芸術作品展示を実施することができた。

【文化財所有者等が行う日本文化の魅力発信】

- AR技術などの先端技術を活用した通常は見られないような当時の城郭など魅力あふれるコンテンツを制作することができた。

【渡航前・帰国後の日本文化の魅力発信】

- 旅前・旅後の情報発信について、外国人有識者等の執筆・監修としたことで、外国人目線で魅力的なコンテンツによる発信が可能となった。

要改善点

【空港等における日本文化の魅力発信】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により訪日観光客が激減し、期待したほどの情報発信につながらなかった。

【文化財所有者等が行う日本文化の魅力発信】

- まだ竹田市のコンテンツの公開ができていないため検証は難しいが、先進技術を用いた文化財の活用の取り組みが十分普及している状況ではないと考えられるため、より一層事業の充実に努め、効果的な先端技術の活用方法等の事例を収集する必要がある。

【渡航前・帰国後の日本文化の魅力発信】

- 具体的な誘客に繋げるためのオンライン予約等の環境整備が十分ではない。

改善の方向性（次年度以降の事業展開）

【空港等における日本文化の魅力発信】

- 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえつつ、作品展示時期や公開形態については適切に調整するとともに、一過性ではなく継続的な展示を目指し、空港や周辺地域等のニーズや要望を踏まえつつ、作品のテーマや形態、展示方法等について検討する。
- 訪日外国人の減少による訴求対象者数減を補完するため、Web等を活用し、**広く国内外に対して**展示作品等の魅力の発信を行う。

【文化財所有者等が行う日本文化の魅力発信】

- 本事業による成果をWEBサイトなどにより国内外向けに発信するほか、先端技術を活用した文化財の事例収集を行い、効果的な整備・活用方法等を検討する。**
これらにより、全国各地の文化財について本事業の一層の事業の周知を図っていく。

【渡航前・帰国後の日本文化の魅力発信】

- サイトのビューア数や滞在時間等から利用状況やニーズを分析し、利用者目線での改善を図るとともに、国内向けを含むコンテンツの拡充・更なる多言語化の検討を進める。**

⑦文化資源を活用した付加価値創出（観光等）
（3）Living History（生きた歴史体感プログラム）事業
担当課：文化資源活用課

3) Living History (生きた歴史体感プログラム)事業

令和2年度予算額 1,800百万円

概要

文化財に新たな付加価値を付与し、より魅力的なものとするための取組(Living History)を支援することなどにより、文化財の活用による地域活性化の好循環を創出を行う。また、訪日外国人観光客が多く見込まれる日本遺産や世界文化遺産などにおいて、地域全体で魅力向上につながる一体的な整備や美観向上、公開活用のためのコンテンツの作成などを行うことで、観光拠点としての更なる磨き上げを図る。

事業内容

【補助対象事業者】 地方公共団体等

【補助率】 1/2 (ただし、条件に応じ2/3を上限に加算)

- ① 文化財建造物や史跡等を訪れた方が、歴史的背景に基づいて往時を体験・体感できるような復元行事や展示・体験事業などの取組み「Living History (生きた歴史体感プログラム)」を支援するとともに、特別料金の徴収等の仕組みを構築



(絵図より忠実に再現した大名行列の実施)



(当時の饗応の様子を御殿にて再現)



(火焰型土器を使った調理など縄文時代の生活を実際に体験)



(史跡における当時の様子をARを活用して体験)

- ② 日本遺産や世界遺産などの外国人観光客が見込まれる地域で、魅力向上につながる一体的な整備や美観向上、公開活用のためのコンテンツの作成などを行うことで、観光拠点としての磨き上げを実施



(スロープ・昇降機等のバリアフリー整備)



(伝統的な家屋の宿泊施設への転用)



(名勝庭園の美観向上 (屋根の部分葺き替え))



(伝建地区の美観向上 (外壁漆喰の塗りなおし))

⑦文化資源を活用した付加価値創出（観光等）

3) Living History（生きた歴史体感プログラム）事業

達成目標

地域振興、観光・産業振興等への活用のための取組を進めるため、地域の文化財建造物等を生かしたユニークベニュー等による公開・活用の取組、建造物・史跡等の文化財とその周辺環境の一体的な保存・活用等を図る。（※文化芸術推進基本計画 戦略2 関係）

現状分析

- 観光資源たりうる文化財が、必ずしも観光客（特に外国人観光客）にとって往時が分かりやすい形で公開されておらず、文化財の活用による地域活性化の好循環の創出が充分ではないため、歴史的背景に基づいた復元行事や展示・体験プログラム等の構築により、文化財に新たな付加価値を付与し、より魅力的なものとするための取組（Living History）を始めた。
- 各地の文化財による観光拠点としての整備や磨き上げが充分ではないため、訪日外国人観光客が多く見込まれる日本遺産や世界文化遺産などにおいて、地域全体で魅力向上につながる一体的な整備や公開活用のためのコンテンツの作成等を行っている。

※文化に関する世論調査（令和2年3月）

「あなたは、日本の文化財を観光の資源として魅力あるものにしていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。（複数回答）

- | | |
|--|--|
| ①文化財が良好な状態で美しく保存・管理されている：53.2%(H31:48.8%) | ②文化財と周辺の景観に統一感や一体感がある：32.5%(H31:30.1%) |
| ③歴史的な建物などを用いたイベントが開催されている：30.7%(H31:29.8%) | ④歴史的な文化について学べたり、体感できたりする講座やツアー、ワークショップなどが充実している：27.4%(H31:20.7%) |

測定指標（達成目標を図るための指標）

- （1）補助事業者が自ら設定したインバウンドに係る目標の達成状況
- （2）以下の測定指標の設定を検討 ←当該取組により文化財の保存活用に係る意識を醸成し、下記の指標の数値を更に伸ばしていく。
 - ①文化財が良好な状態で美しく保存・管理されている
 - ②文化財と周辺の景観に統一感や一体感がある
 - ③歴史的な建物などを用いたイベントが開催されている
 - ④歴史的な文化について学べたり、体感できたりする講座やツアー、ワークショップなどが充実している

達成手段

（1）主な令和元年度の施策（◆予算事業、●その他）

◆Living History（生きた歴史体感プログラム）事業 3,474百万円（令和2年度予算額1,800百万円）

3) Living History（生きた歴史体感プログラム）事業

(2) 主な事業の分析

行政事業レビューの抜粋

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込
	Living History(生きた歴史体感プログラム)事業の補助事業 実施件数		活動実績	件	-	-	183	-	-
			当初見込み	件	-	-	264	204	-
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 3年度	目標最終年度 年度
	観光拠点整備計画等の目標 値の達成率が80%以上となる 地方公共団体等の割合が80% 以上となることを目指す。	観光拠点整備計画等の目標 値を80%以上達成した地方 公共団体等の割合(令和元 年度の実績値は集計中)	成果実績	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	-	-	80	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	Living History(生きた歴史体感プログラム)事業の報告書								

※観光拠点整備計画等において設定する目標値に係る測定指標の例

外国人観光客入れ込み数の現状値、目標値及び目標値に対する達成度（見込みを含む）

3) Living History (生きた歴史体感プログラム) 事業

(2)主な事業の分析

グッドプラクティス (平成31年度)

Living History in 京都・二条城～生きた歴史体感プログラム～ ＜Living History in 京都・二条城 協議会＞

『寛永茶会』と題し、後水尾天皇のサロンでなされたような「宮廷の美」を取り込んだ意匠を楽しむ茶会の実施、小笠原流弓奈術礼法一門による武家礼法の実演などを行った。

11月20日～22日に開催し、61人の参加者(うち外国人1名)があった。その後、コロナの影響で開催できていないが、毎年10月の開催を計画している。



二ノ丸御殿 黒書院での茶会



小笠原流弓馬術礼法の実演

伊佐爾波神社楼門 ＜愛媛県松山市＞

伊佐爾波神社楼門の外観の塗装・彩色に剥落、褪色や汚損が目立ち見栄えが悪くなっているため、塗装彩色を行う。

松山市では、広域観光周遊ルートを生かし、瀬戸内の新たなツーリズムの創造を推進しており、平成28年度には187,400人だった外国人観光客は、令和元年度には228,100人に増加した。伊佐爾波神社が存在する道後地区は愛媛県内最大の観光地であり、道後温泉駅を出た正面に位置している伊佐爾波神社の朱塗りの社殿はフォトスポットとして人気が高く、主要なコンテンツと位置付けている。



楼門の塗装劣化状況



楼門での実施実績

姫路城を活かした歴史体感プログラム事業 ＜姫路市＞

姫路城西の丸化粧櫓を使用し、「千姫姿絵」の絵画等に基づき復元制作した衣装の展示、及び千姫・忠刻の簡易的な着物や甲冑の着装体験を実施。また、大名行列の再現にも着手している。

侍体験事業を2月1日～29日に開催し、596人の参加者があった。その後、コロナの影響で開催できていないが、毎年11月～3月の開催を計画している。



侍体験



絵図より忠実に再現した大名行列の実施(写真右は従来のイベント)



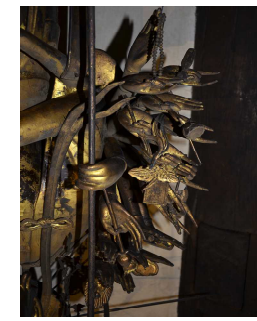
妙法院三十三間堂の国宝木造千手観音立像 等 ＜京都府京都市＞

蓮華王院本堂(三十三間堂)を訪れる多数の拝観者によって持ち込まれた埃が堆積し、像の見映えが損なわれていた。本事業でこの埃を除去することによって、拝観者は本来の美しさを取り戻した仏像を鑑賞することが可能となった。

令和元年度は、磨き上げ事業の効果もあり、新型コロナウイルスの影響がありながらも、約23万人もの外国人の拝観者があった。



埃除去前



埃除去後

3) Living History（生きた歴史体感プログラム）事業

(3)評価点と改善点

評価点

- 訪日外国人旅行者の増加に資することが明らかな施設に限定して実施するなど、事業の選定に当たっては、選択と集中を行っている。
現に、外国人観光客が増加している文化財に対して、事業を実施できている。
- 訪日外国人旅行者の増加の効果に応じて、補助率に差異を設けるなど、費用対効果も考慮して事業を進めている。
- 取組主体により様々なプログラムが計画されるとともに、今後、定期的な実施が予定されるものもあり、取組が定着しつつある。

要改善点

- 訪日外国人旅行者の増加により効果的な事業に補助するため、事業実施前後における、訪日外国人旅行者の増加の効果を検証し、その後の事業選定の参考にする必要がある。
- インバウンドの視点だけでなく、文化的な観点からの測定指標の設定を検討する。
 - ①文化財が良好な状態で美しく保存・管理されている
 - ②文化財と周辺の景観に統一感や一体感がある
 - ③歴史的な建物などを用いたイベントが開催されている
 - ④歴史的な文化について学べたり、体感できたりする講座やツアー、ワークショップなどが充実している
- 訪日外国人観光客だけでなく、地域住民を含めた多くの人々の参加協力の下、実施されていくものであり、日本人自身、あるいは、地域の方々に一緒に盛り上げていけるような仕組みが必要がある。

改善の方向性（次年度以降の事業展開）

- 今後の採択に資するため、事業により期待される事業効果として、インバウンドの現状値及び目標値、目標値に対する達成度（見込みを含む）を確認し、成果を検証するとともに新たな指標についても検討を行う。目標未達の場合には、未達となった原因を分析し、インバウンドを増加させるための改善策を事業者に提出・実行させるとともに、その際得られた知見をその後の事業選定の参考とする。
- 補助事業実施期間終了後も見据えた事業評価の在り方については今後要検討。
- まずは、申請内容、積算等について精査するとともに、実績報告書の確認等を行い、より適正に補助金が執行されるよう努めたい。